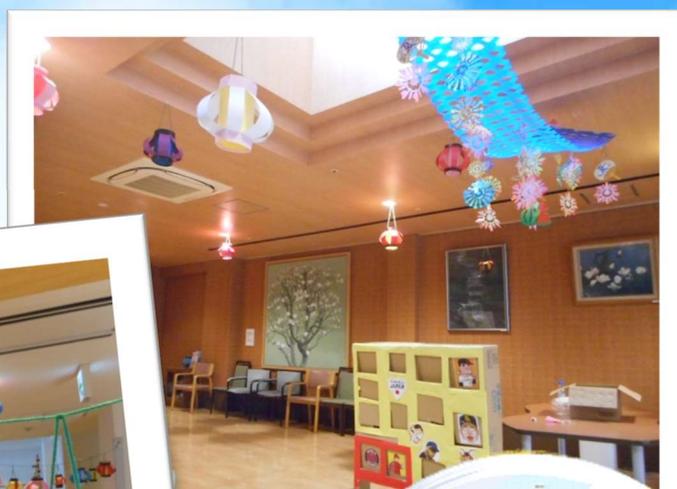


みのわだより

verde

「verde」とは、ポルトガル語で「緑の」という意味です。



ベルジ箕輪

ベルジ株式会社 有料老人ホーム ベルジ箕輪

発行責任者 総支配人 守田 昌史

支配人 高木 正幸

〒370-3104 群馬県高崎市箕郷町上芝 839-4
Tel 027-371-6610 / Fax 027-371-6613

E-mail minowa@e-verde.co.jp

URL <http://www.e-verde.co.jp>

(ホームページにてブログも更新しております。そちらも是非ご覧ください。)

7月の出来事



昭和レトロがブームの昨今で、若い人も再注目しているのは建物や街並み、雑貨や家電ばかりではなく、温泉街で遊んだこともある、輪投げや射的、スマートボールなどのレトロゲームも注目されているようです。「懐かしい」と皆様も輪投げに夢中に。さらに夏の遊びといえばスイカ割り、「右！左！」と見ているほうも手に汗握り白熱。ひとしきり遊んだ後はラムネを飲みながら日本の伝統芸能、南京玉すだれを鑑賞。お囃子のカンカンの音が鳴り響きお祭りのフィナーレ「アさて、アさて、さては南京玉すだれ～」と皆で口上し、久方振りの賑やかな夏を楽しみました。

祭 箕輪納涼祭

夏といえばお祭り。全国各地で数年ぶりに夏祭りが再開し、猛暑の夏に負け時と熱気を帯びていますが、ベルジ箕輪でも納涼祭を開催。ボールを投げて入れる的あてゲームに、水鉄砲で和紙を撃ち抜く射的、磁石の付いたアヒルやブタを釣り上げる釣りゲームを軸にスタンプラリーでお祭りを楽しみました。ハンコ集めに夢中になって「揃ったぞ！」と自慢気に見せてくださった皆さまも。全部ハンコが集まると交換で貰える景品のタイ焼きとラムネを頬張り「ガハハ」と豪快な笑い声。お祭りは元気そのもののエネルギー、心が沸き立ち活力漲った効果なら嬉しい限り、皆さまの夏は元気いっぱいでお過ごしです。



納涼祭とは、気温自体は下がらないけれど、涼くなる瞬間を工夫して楽しむ行事であり、みんなで集まって楽しく涼もうとするのが、納涼祭の概念。夢中になって遊んでいるうちに夏はあっという間に過ぎ去って、暑さもいつの間にか喉元を過ぎるようにケロリを越えていけたら幸いと思います。とはいえ、昨今の暑さは尋常ではない危険な暑さです。水分補給、熱中症対策に配慮し、夏の思い出をいくつもつくり 2023 年夏の記憶を記したいですね。



五式の短冊に願いをしたためますが、青が表す徳は「仁」、赤が表す徳は「礼」、黄色が表す徳は「信」、白が表す徳は「義」、黒もしくは紫が表す徳は「智」です。願いにあった色で、より成就しやすくなるそうです。

七夕



夏の風景を創作しています。大きな向日葵が主人公の物語。大空に向かって咲く大輪の向日葵畑と海かしら？どんなストーリーが紡がれるのか楽しみです。

機能訓練

機能訓練とは、利用者ごとの身体機能や生活機能の維持・向上を目的とし、個々の身体状況や目標に合わせたプログラムを作成し、介護サービスで提供する運動療法などの訓練をいいます。日常生活に必要な動作の維持、支援していく役割を担っています。



ちぎり絵

担当の機能訓練指導員が各入居者様のお身体の状態を評価し、ご入居者様お一人お一人に合った機能訓練を歩行訓練や関節可動域練習、器具やマシンを用いて練習など多岐にわたる訓練の中から選定して行っています。



屋外に出たいというご入居者様の声に合わせて、天気や気温に合わせての歩行訓練を開始いたしました。屋外に出ることで季節感や風情を感じながら訓練を行えるため「気分が良かった」と好評いただいております。



当施設では理学療法士や作業療法士、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師など資格をもつ職員が揃っており、女性職員がいること、また多職種間で連携することで、より良い機能訓練が提供できるようになっております。このチーム力で皆さまの機能向上を目指し、一生懸命取り組んでおります。



理学療法士 関口チーフ・北島

理学療法士とは、けがや病気などで身体に障害を持った人へ基本動作能力（座る、立つ、歩くなど）の回復や維持、運動療法や物理療法という医学的なりハビリテーションを施す国家資格であり、日常生活への復帰や生活改善のサポートをするリハビリテーションの専門職です。PT(physical therapist)とも呼ばれています。



みのわ情報

◆ Minowa ガーデン情報

今年のグリーンカーテンは朝顔。蔓がぐんぐん伸びる様は毎日の観察の楽しみに。蕾みを見つけると「何色が咲くんだろうね」楽しみが増えました。水色の花が咲くと「なんて綺麗な色なんですよ」「空と同じですね」和やかな会話が聞こえました。



◆ 行事食 土用のウナギ



『石麻呂に吾れもの申す夏痩せによしといふものぞむなぎとり召せ』大伴家持「万葉集」には、ウナギを詠んだ歌がありますが、きみは痩せているから、夏痩せに効くというなぎを捕って食べたら？」と友人に宛てた歌なのだそう。日本の習わし「う」のつく食べ物のウナギ。食べやすいように刻んであるのですが「これがウナギ？」と言われてしまいました。ウナギといえば蒲焼だったようです（笑）

編集後記

夏の風物詩「お祭り」今年各地で催され、今まで抑えていたものを解き放つかのような熱気でした。ベルジ箕輪でも納涼祭開催の運びとなり、箕輪のノッポさんを筆頭に、レクリエーション委員会で何度も切磋琢磨。屋台がいいのか、出し物がいいか、ゲームがいいか。お神輿やねぶたのような雅なものはご用意出来ませんでした。非日常の雰囲気味わってもらいたく、館内のどこもかしこも沢山の提灯で演出を施しました。ダウンライトの明かりで提灯が透け、柔らかな和紙の赤や黄色、青や桃色のはんなりとした明かりが照らし、ジブリ映画の一幕のような幻想的な雰囲気に「キレイ、よく考えたね」と皆さま。何もかも手作りのお祭り、派手で雅なものはなくとも、お祭りまでのワクワク感を楽しんでもらえたのではないのでしょうか。夏はあっけなく過ぎ去っていく季節、お盆を過ぎれば暑さも一入、エアコンの涼しさは大切ですが、汗を流すこともメリットとして、体の老廃物を排出することや、体温を調節し、身体を守る効果もありますので、お祭りの夏、高校球児の夏、適度に汗をかきながら楽しみたいですね。青空に綿菓子のような真っ白な入道雲、灼熱の太陽が身を潜めた後の桃色の空、鮮やかな色で咲く向日葵や朝顔。ヒグラシの鳴き声を聞きながら、温い風に揺らぐ蚊取り線香の煙を眺め、縁側で齧る真っ赤な西瓜。気怠い夜も夏の醍醐味。夏の風物詩をいくつも味わう夏でありますように。